

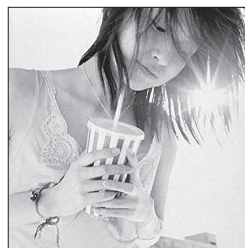
フェイクファー



聴く者の心にストレートに届く、強い言葉、明るいメッセージ。私たちの周りにはそんな素敵な歌詞を持った音楽があふれていて、常に元気をくれます。しかしときどき、飽和したポジティブな言葉の数々に疲れてしまうことはありませんか。「どうして私は、この歌に出てくる人たちみたいに真っ直ぐな感情を抱けないのかな」そんなふうに感じたときに聴いてもらいたいの、今回紹介するスピッツのアルバム、『フェイクファー』です。

アルバムを通して漂う雰囲気はどこか気だるげ。わかりやすく愛が叫ばれることもなければ、明日への明るい希望が高らかに歌い上げられるわけでもありません。穏やかなメロディにのせて、とらえどころのない歌詞が紡がれます。しかし、決してただ空虚なわけではないのです。抽象的とも呼べそうな歌詞、揺蕩たゆなうような旋律の間からは、確かに何か意味のあるものを読み取れそうな気がしてくるでしょう。それは、一度聴いてわかる類のものではないのだけれど。深いような、それでいて無作為のような、不思議な歌詞の意味について考えているうちに、アルバムの世界観に引き込まれていきます。そしてアルバムの最後を飾る表題曲「フェイクファー」まで聴いたときに、私たちは気付くのです。言葉にしなくてもいい。できなくてもいい。感情はいつも複雑で、言い表せないような曖昧なものなのかもしれない。でも確かにそこにあって、それが大切なことなんだ、と。

少しずつ顔を覗かせ始めた春のように、温かなものを与えてくれる。強いメッセージ性はないけれど、自分のよくわからない感情にも優しく寄り添ってくれる。そんな本作は、きっとあなたの心をやわらげてくれるはず。京都はまだまだ厳しい寒さが続きますが、『フェイクファー』とともに温かな時間を過ごしてみたいいかがでしょうか。



『フェイクファー』スピッツ
 定価：2571円(税込)
 発売日：1998年3月25日
 発売元：ポリドール